

1 テーマ

人生を主体的に切り拓き、高い志を持って社会に貢献する人材の育成
～大学入試改革及び次期学習指導要領に対応する指導体制の確立を通して～

2 取組方法

- ☆ 未来構想委員会の設置
- ☆ アダプティブラーニングの推進
- ☆ 英語エンパワーメントプログラム
- ☆ 進学補習・勉強合宿
- ☆ 土曜授業の実施
- ☆ 自習室の開放
- ☆ アクティブ・ラーニング公開授業
- ☆ 授業アンケートの実施と分析
- ☆ 教科指導セミナー・先進校訪問
- ☆ 大学連携専門教養講座・実験講座
- ☆ 国際理解教育の推進
- ☆ キャリア講演会
- ☆ 職業人インタビュー
- ☆ 大学模擬授業

3 成果指標

成果指標		初期値	目標値	実績(評価)
① 授業への取組	2年	33.1%	35.0%	31.1%(B)
	1年	28.5%	30.0%	32.2%(A)
① 平日学習時間	2年	1.46h	2.00h	1.37h(C)
	1年	1.62h	2.00h	1.41h(C)
① 休日学習時間	2年	2.44h	3.00h	2.18h(C)
	1年	2.85h	3.00h	2.32h(C)
③ 授業で力がついた実感	2年	8.4%	10.0%	7.1%(C)
	1年	8.8%	10.0%	7.3%(C)
① 難関国公立大学受験者数		19人	20人	27人(A)
② 外部との連携による探究活動への参加者数		24人	30人	59人(A)
② 大学進学を目的とした補習等への参加生徒数		838人	850人	787人(C)
③ 難関国公立大学の合格者数		7人	8人	8人(A)
① 自分の将来は自分で動けば変えられると考える生徒(1年)		—	90.0%	88.0%(B)
① 自分の志望する大学または学部を具体的に挙げられる生徒(2年)		—	80.0%	81.9%(A)
③ 国公立大学の合格者数		167人	180人	124人(C)

4 特徴的な取組

未来構想委員会の取組

指導体制構築プロジェクトチーム

- ☆ 次期学習指導要領に対応した学習指導体制の検討と実施
- ☆ 高大接続改革・大学入試改革に対応した指導体制の検討と実施

東陵セミナー改革プロジェクトチーム

- ☆ 東陵セミナー（総合的な探究の時間）における探究的学習プログラムとパフォーマンス評価の開発

アクティブ・ラーニング推進プロジェクトチーム

- ☆ アクティブ・ラーニング研修会の実施と研究
- ☆ アクティブ・ラーニング公開授業の実施、全教員3回以上の相互授業参観

学力向上・高大接続・キャリア教育

3年

キャリア講演会

「変化の激しい時代を主体的に生きぬくために 一進路選びの前に考えておきたいこと」

法政大学

児美川 孝一郎 教授



2年大学模擬授業

大学教官による模擬授業



3年DVD講座

難関大受験教材と解法 DVD 講座



2年

英語エンパワーメントプログラム

英語力とモチベーションの向上



2年大学見学

大学見学及び報告会



3年勉強合宿

8月に富士研修センターで実施

146人

参加



東陵室（自習室）の開放

平日（朝7時～夜7時）及び休日の開放



1年職業人インタビュー

静岡市・商工会議所と連携し、企業等に訪問、インタビューを行う。まとめと発表会を行う。

アカデミックインターンシップⅠ

市内大学での専門教養講座と単位取得及び報告会



1年

5 成果と今後の方向性

<成果>

- ☆ コアスクールの諸事業が事前事後研修として相互に関連し合い、エンパワーメントプログラムや外部実験講座、探究活動等に、生徒が積極的に参加するようになった。

<今後の方向性>

- ☆ 次期学習指導要領・高大接続改革における進学指導体制の研究と研修をさらに進める。
- ☆ 生徒の主体的なキャリア形成意識を促すことができるよう、行事等を体系的に整備する。

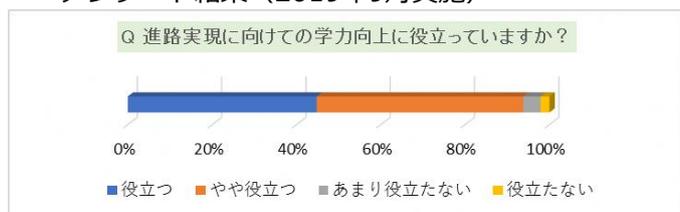
<p><1 テーマ></p> <p>外部との連携等による東高生の学力と資質・能力の更なる高次元化</p>
<p><2 取組方法></p> <p>I 予備校講師による補講 代々木ゼミナールの講師による補講を実施</p> <p>II 東大・名大での研修 1・2年生希望者を対象に大学を訪問し、大学教員等による講義、本校卒業の在学生との情報交換会を実施</p> <p>III 静岡県立大学薬学部の研究室訪問 8月に講義・見学・実習による研修を実施</p> <p>IV 浜松医科大学における研修 大学による授業開放を選択して受講</p> <p>V 大学、企業等による出前講義 10大学(12学部)による出前講義、県内の8企業等による職業レクチャーを実施</p>

<3 成果指標と実績>			
成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組 2年	35%	40%	28.4%
1年	—	—	32.7% (C)
①平日学習時間 2年	106分	120分	103分
1年	—	—	103分 (C)
①休日学習時間 2年	164分	180分	153分
1年	—	—	151分 (C)
③授業で力がついた実感 2年	8%	15%	9.6%
1年	—	—	6.9% (C)
①難関国公立受験数	64人	70人	58人(C)
②外部連携参加数	50人	70人	*171人(A)
②補習等への参加数	—	70人	98人(A)
③難関国公立合格数	34人	40人	40人(A)
③予備校講師満足度	—	80%	*94.8%(A)
③大学研修の評価	—	80%	97.8%(A)
②深い学びの実現	60%	65%	73.9%(A)
③記述模試 2年	140人	160人	111人
SS60以上 3年	85人	90人	89人 (C)

<4 特徴的な取組>

I. 予備校講師による補講

- ・代々木ゼミナールの講師 3人(国・数・英)
- 2年生の希望者対象(98人が受講)
- 原則として木曜日の放課後、各3回(計9回)実施
- ・アンケート結果(2019年9月実施)



竹内講師による数学の講義

II. 東大・名大での研修

- 東京大学** 8/3 東大の学生団体と連携して訪問実施 **15**人参加
- ・現役東大生のプレゼン、東大教授の模擬授業(大学、研究内容等の理解)、本校出身の医学部生との交流。
- 名古屋大学** 7/22 本校独自企画として訪問実施 **123**人参加
- ・本校出身の学生によるプレゼン、学生との交流、文理別に名大教授の模擬授業(大学、研究内容等の理解)。



東大での交流

Ⅲ. 静岡県立大学薬学部の研究室訪問

・8/23・26実施 **18**人参加 5研究室において講義・見学・実験・実習を実施

{薬剤学、医薬生命化学、医薬品製造化学、分子病態学、薬食研究推進センター}



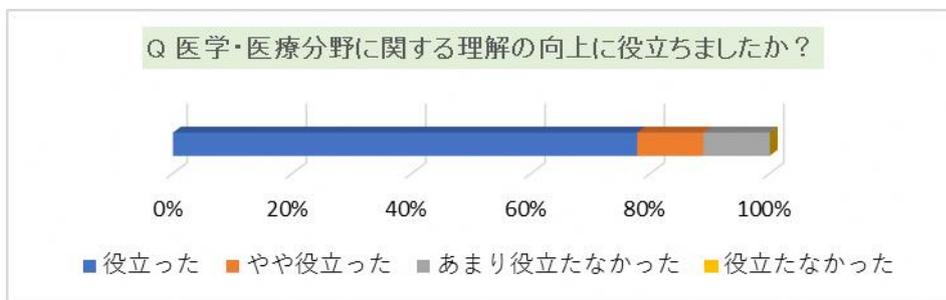
医薬品製造化学研究室での実験

「現代における薬学の役割とは何なのか、考える良い機会となりました。薬の飲みすぎによって逆に不健康になってしまう事例を聞き、薬のことを正しく知り、適切な使用をすることが大切だと思いました。」（2年男子）

「実験の時に聞いた『天然では希少すぎてコストがかかるものを工業的に作られた入手が容易、安価なものから作る』というお話にとっても興味を持ちました」（1年女子）

Ⅳ. 浜松医科大学における研修

・6/3～14 に行われた大学による授業開放に、興味・関心分野の講義を選択して受講 **15**人参加



Ⅴ. 大学、企業等による出前講義

大学 10/18実施 10大学（12学部）による出前講義 2年生全員参加 2つを選択受講

企業等 7/4実施 県内の8企業、官公庁等による職業レクチャー 1年生全員参加 2つを選択受講



出前講義 東北大学工学部材料科学



職業レクチャー テクノサイト

< 5 成果と今後の方向性 >

- ・外部（予備校、大学、卒業生、企業等）との連携による事業・行事について、本年度、参加数が大幅に増加した。生徒の評価は良好であり、連携先との関係を今後も維持しつつ、さらなる連携先を開拓していく。また、参加前後の研修・振り返りを行うことで、単なる聴講・体験にとどまらず、生徒の学力及びキャリア意識の向上につながっている。これを継続するとともに、事前・事後の研修・活動において思考力・判断力・表現力を促進するツールを改善していく。
- ・生徒の学力向上及び高大接続改革に向けて教員の指導力向上を図る取組については、改善の余地がある。昨年度の実績を踏まえつつ、効果的に組織的な取組が実践できるよう工夫を継続する。

<1 テーマ>

夢をもつ！主体的に学ぶ！努力をする！（「キャリア教育」、「アクティブラーニングICT」、「生徒が努力できる環境づくり」の融合を図る指導）

<2 取組方法>

- ①キャリア教育的な取組を行って、生徒の意識向上を図る。（大学教官出張講義、社会人講話、大学研究所訪問、自然科学部の活動等）
- ②アクティブラーニング、ICT教育等を通じて主体的な学習への取組を促進する。
- ③生徒が学習に対して真摯に取り組むことができるよう、大学入学共通テストや新教育課程等の研究や、副教材の製作などに取り組む。

さらに、①～③の取組等を通して、教員の指導力向上を図り、生徒の学力向上に資するものとする。

また、本校はコアスクール（英語教育）でも指定を受け、エンパワーメントプログラムなどの活動を行っている。それらの活動も進学に良い影響を与えるものと思われる。コアスクールの進学重点と英語教育との互いの成果により、相乗効果が生まれるものと期待する。

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値 (29年)	目標値 (30年)	実績（評価） (30年)
①授業への取組 2年 1年	28.0% 33.1%	30% 35%	25.2% (B) 35.9% (B)
①平日学習時間 2年 1年	1.40h 1.30h	1.45h 1.35h	1.59h (A) 1.35h (A)
①休日学習時間 2年 1年	2.29h 2.11h	2.35h 2.15h	2.16h (B) 2.23h (B)
③授業で力が ついた実感 2年 1年	8.4% 6.8%	10% 8%	3.3% (C) 4.1% (C)
①難関国立大学の 受験者数	46人	50人	37人 (B)
②外部との連携による 探究活動等への参加 生徒数	16人	18人	21人 (A)
②大学進学を目的とした 補習等への参加 生徒数	延約 1,000人	1,100 人	1150人 (A)
③難関国立大学の 合格者数	14人	18人	17人 (A)
②大学教官出張講義	100人	120人	100人 (A)
②自然科学部の活動	16人	18人	21人 (A)
③大学入学共通テストに 対応した副教材の製作	なし	研究・資料 集め	30% (A)
③小中学生対象理科コン クールの開催	1人	2人	0人 (C)

<4 特徴的な取組>

自然科学部が世界第2位に！

5月12日～17日にアメリカ・アリゾナ州フェニックスで行われたIntel ISEF2019に本校自然科学部3年生の岡本優真、塚本颯が出場しました。2人はanimal sciences部門に登録し、「Bird Environmental DNA from the Air」という題目で発表を行いました。

発表から質疑応答まで全て英語で行いましたが、通訳の方にもほとんど頼らず、自分たちの力だけで全てやりきりました。

審査の結果、Grand Awardとしてanimal sciencesの2等(動物科学部門で世界第2位)を、またSpecial Awardとしてアリゾナ大学賞の2つの賞をいただくことができました。(掛川西高校HPより抜粋)



< 4 特徴的な取組つづき >



プロジェクションマッピング

パソコン部が掛川城を舞台にプロジェクションマッピングを行っている。今年はずでに3月、9月に行い、12月にも行うことを計画している。2月にはSBSテレビ「静岡発そこ知り」の取材班が訪れ、テレビで大きく取り上げられた。また、市と連携した小中学生対象のワークショップなども積極的に行ったり、地元の企業や商店からの要請に応じたりしている。

その活躍は単に部活動の範囲にとどまらず、地域の人々に対する本校の広告塔としての役割を果たしていると言える。

本校が進めている「キャリア教育」や探究の時間を利用した「地域連携」の中核的な存在として、今後さらに活躍が期待される。

カリキュラムマネジメント

目まぐるしく変化する社会環境や新学習指導要領、高大接続のあり方等が変化していく中、本校生徒に育成したい資質・能力を教員が再認識し、指導のあり方を模索・研究するためにカリキュラムマネジメントを進めている。

これまでに総合教育センターの指導主事と筑波大学の藤田晃之先生に講演をしていただき、その後、教員によるワークショップを2回行った。

今後は本校職員が内地留学をしている鳴門教育大学大学院と連携して、さらに推進していく予定である。



< 5 成果と今後の方向性 >

コアスクールとして、進学重点と英語教育の双方の指定を受け、1年半ほどが経過したが、目に見える成果として第一に挙げられるのが、自然科学部の実績であろう。昨年度から国内の大会で文部科学大臣賞を受賞するなど、実績をすでにあげていたが、今年度は世界大会でその実績をさらに積み上げる形となった。自然科学部は記載した2人の活躍が目立つが、他にも「第9回高校生バイオサミットin鶴岡」でゲンジボタルの分布境界付近の生態の研究を発表した生徒が優秀賞を受賞し、また、機械学習を用いた淡水魚の識別の研究発表をした生徒は審査員特別賞を受賞するなど、多くの実績を残した。

今年度はカリキュラムマネジメントを進め、本校の生徒に対する指導の在り方を改めて見直しているところであるが、今後はさらに研修を進め、生徒の育成したい資質・能力について再認識し、どのような指導が適切か探していきたい。

次年度以降は生徒の資質・能力を伸ばしていくために、総合的な探究の時間などを利用して、地域との連携などを研究・実践していきたい。現在はパソコン部が中心となって市や企業などとの地域連携を行っているが、それを一般の生徒に広げていくなど、方策を考えていきたい。

テーマ 新制度入試に向けた効果的な学力向上事業の研究

成果指標	初期値	H30実績	R1目標値	中間実績 (評価)
①授業への取組 2年/1年 (%)	33.7/39.6	44.0/31.0	44.5/32.0	36.7/40.4 ()
①平日学習時間 2年/1年 (時間)	1.8/1.8	2.0/1.0	2.5/1.5	集計中 ()
①休日学習時間 2年/1年 (時間)	3.0/3.1	3.4/1.6	4.0/2.0	集計中 ()
③授業で力がついた実感 2年/1年 (%)	12.0/11.4	10.8/7.7	11.5/8.5	7.5/12.3 ()
①難関国公立大学の受験者数 (人)	87	78	85	— ()
②外部連携した探究活動等参加生徒数 (人)	114	132	140	148 ()
②大学進学補習等参加生徒数 (人)	522	530	535	531 ()
③難関国公立大学への合格者数 (人)	43	43	50	— ()
③東大・京大合格者数 (人)	4	5	7	— ()
③国公立大学合格者数 (人)	156	156	160	— ()
③難関大*合格者数 (人)	35	38	40	— ()

※難関大：旧帝大・一橋大・東工大、国公立大医・薬・獣医学部

取組と中間成果 (10月現在)

ミニ大学



北海道から九州までの日本の主要22大学のべ30人の先生方による、3日間に渡る大学の講義を受講して、将来の学びへの期待と覚悟を育てます。生徒からは「物質の基礎を学んだ気がした。高校の物理や化学とは比べものにならない。」という感想が聞かれました。
2年生全員が希望する講座を受講。

医療系
面接対策講座



予備校の小論文対策講師による「志望理由書」講座、「面接対策」講座。
人の命をあずかる医療系への進学に向けて、自分をきちんと見つめ直す必要性を実感していました。
3年生90人受講。

難関大
英語セミナー

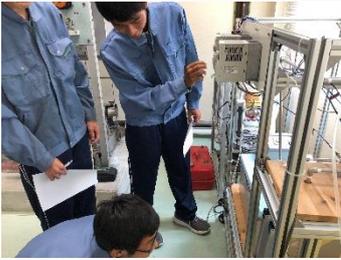


予備校の講師を招き、英語の実力養成を今後どのように進めていけばよいか。新制度入試、特に難関大受験においてウェイトがますます大きくなる英語に対応します。
2年生97人、教員受講。

難関大高大連携*



東京大学先端科学技術研究所と大学の研究室を訪問し、自分が取り組む課題研究の内容を東大教授らに質問。本校を卒業した東大生との交流を通して、今と将来の学びをつなげます。
2年生14人参加。

<p>高大等連携 実験実習講座※</p>		<p>静岡大学工学部 9 講座、静岡理工科大学 1 講座、浜松ホトニクス(株)中央研究所 1 講座を選択して受講。最先端研究の講義、実験実習に取り組み、科学者に求められる基本的な手法を学ぶことで、科学の最前線への意識を高めます。 1 年生41人参加。</p>
<p>企業等との連携事業※</p>		<p>浜松ホトニクス(株)中央研究所の企業見学。最先端の研究施設を見学・体験しました。 1 年生41人参加。 磐田市「ヤング草莽塾」でのまちづくり提案 (11月実施) 市内中小企業等との交流事業 (12月実施)</p>
<p>理数科課題研究に おける高大連携※</p>	<p>課題研究発表会 (2月実施) で、いくつかの班は英語による発表を行います。大学教員の指導を受けることで、国際感覚を意識します。 発表は普通科生徒にも公開します。 課題研究本発表者40人 (うち大学教員の指導を受けている生徒14人)</p>	
<p>マウンテンビュー 高校との連携</p>		<p>マウンテンビュー高校訪問 2019年3月21日～31日 生徒25人参加 2020年4月マウンテンビュー高校生25人来日予定</p>
<p>海外短期留学の 推奨</p>	<p>カリフォルニア州立大学サクラメント校 1人 ジョージタウン大学 2人 マウンテンビュー市 2人 コーニング市 1人</p>	
<p>文章読解能力向上の ための一斉読書</p>	<p>2年生のクラス全員で同じ課題図書を、一斉に読書します。共通の本を読むことで、生徒同士で読書についての会話ができ、自発的な読書へとつながります。</p>	
<p>ミニ探究ノートによる 探究活動の充実</p>	<p>1年から2年にかけて、探究活動に計画的に取り組みます。本校のカリキュラムに沿ったミニ探究ノートを使って、主体的・対話的に学ぶ力と問題解決能力を育成します。</p>	
<p>大学進学を目的とした 課外学習への参加</p>	<p>3年生前期課外参加生徒 271人 (延べ485人) 夏季課外参加生徒 260人 (延べ485人)</p>	
<p>授業力向上 プログラム</p>	<p>予備校などの授業力向上セミナーに教員が参加し、内容を広く学校で共有します。 予備校などの授業力向上セミナー 6人 他校のコアスクール事業等の参観・聴講 4人</p>	
<p>入試研究会等への 参加</p>	<p>模擬試験を実施する民間企業や大学等による入試研究会・説明会に教員が参加し、その内容を広く学校で共有します。 駿台 13人・河合塾 6人・他 15人</p>	
<p>相互授業参観</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」を目的とした研究授業を実施、参観。その後に授業検討会を実施して、全教員が自分の授業力向上に努めます。 公開授業・研究授業において、その授業で解決したい課題を明示します。 一般向け公開授業 2回・校内研究授業 1回・相互授業参観 年2回</p>	

※外部連携探究活動

今後の方向性

実施予定の事業は、現在のところ予定通り実施できている。コアスクール事業のほか、マウンテンビュー高校との連携、海外短期留学の推奨、生徒対象入試問題解説会、1・2年生対象課外等、本事業のテーマに沿った活動を進め、生徒の進路目標を実現のために努力を続けていきたい。

<1 テーマ>

生徒個々の質の高いレベルでの進路実現

<2 取組方法>

- (1) ころごしを育み、進路意識を明確にするため、特別講義や先輩による講義等を実施する。
- (2) 個々の進路希望に対応したレベルの高い講座やチャレンジを推進する。（医学科セミナー、大学出張講座、裁判選手権等）
- (3) 教員の指導力向上のために、外部教育機関の講師を招請し、教科別学習会を開催する。また、予備校への教育セミナーにも参加する。
- (4) 先進校のノウハウの吸収や授業力向上を目的として、先進校視察の実施や高大接続改革に関する研修会への参加を推進する。

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
①授業への取組 2年	34.0%	36.0%	36.3%
1年	38.3%	40.0%	43.3% (B)
①平日学習時間 2年	2.4h	2.6h	2.6h
1年	2.0h	2.2h	2.0h (B)
①休日学習時間 2年	4.0h	4.2h	4.2h
1年	3.4h	3.6h	3.7h (B)
③授業で力が 2年	8.0%	10.0%	9.5%
ついた実感 1年	10.5%	12.0%	14.5% (B)
①難関国公立大受験者数	198人	210人	214人 (B)
②探究活動参加生徒数	25人	30人	32人 (B)
②補習等参加生徒数	2000人	2100人	2235人 (A)
③難関国公立大合格者数	53人	63人	76人 (S)
① 難関国公立大受験者数	306人	310人	290人 (B)
② 医学科合格者数	10人	12人	14人 (A)
③ 模擬試験成績上位者数	108人	110人	83人 (C)
④ センター8割以上人数	97人	100人	146人 (A)

<4 特徴的な取組>

1 特別講義・先輩による課外授業

【特別講義】 東京大学 理事・副学長

「大きく変容する世界で活躍するために」



浜松北高新聞より抜粋

5月24日、東大副学長の福田裕穂氏による特別講義が本校で行われた。（中略）新聞部は講義後に独占インタビューを行い、教育、生物学や、講義で語られたことについてさらに深いところまで幅広くお話を伺うことができた。

独占インタビュー

Q1 急激にグローバル化が進む今、世界の諸問題に対し、日本はどうかかわっていくのか。

A1 政府と経済の二つの面から考えよう。まず、政府と（後略）



先輩による課外授業（1、2年）

弁護士、女性技術者、IT関係社長
医師、建築士、総合職、韓国ドラマ字幕監修者、WEBディレクター
新聞記者、起業者など15人



2 医学科セミナー、裁判選手権（ハイレベルへチャレンジ！）



【医学科セミナー】



【裁判選手権 1】



【裁判選手権 2】



【裁判選手権 3】



【裁判選手権 4】



【裁判選手権 5】



【裁判選手権 6（閉会式）】



【裁判選手権 7（表彰）】

6月に講師を招請して生徒対象の医学部医学科セミナーを実施した。また、8月は地元の弁護士会の方の協力を得て、第13回高校生模擬裁判選手権関東大会に出場し、見事2年連続の優勝を勝ち取った。

3 教科指導力向上研修



8月下旬に外部教育機関から国語・数学・英語の有名講師を招請し、該当教科の担当教員が全員出席して超難関大学の入試問題の分析、分野別の教材研究、新教育課程に向けての研究会等を実施した。

<5 成果と今後の方向性>

- (1) 「特別講義」や「様々なキャリアを持つ先輩方による課外授業」等によって、多くの生徒のころごしが生まれ、高い進路希望の実現に向けて意欲を高めることができている。特別講義後の新聞部のインタビューが示すように、積極的に講師と意見交換等をして、新しい見方や考え方等について学び、視野を広げた。
- (2) 医学科セミナー（3回シリーズの第1回目）などのハイレベルな講座に生徒たちは積極的に参加し、進路意識を高めている。また、高校生模擬裁判選手権などに参加し、優勝したことにより、多面的な見方や論理的に意見を構成する力などを身に付けると同時に、法曹界への憧れを強めた。今後は、ハイレベルな大学出張講義や東大キャンパスツアーなど、様々な企画により、ころごしを育み、進路意識を高めていく。
- (3) 教員対象の教科指導力向上研修を実施したことにより、じっくりと教材について考える機会を持つと同時に授業改善への意欲を高めた。今後は、首都圏を中心とした先進校視察を実施し、様々な取組やノウハウを吸収して学校改善につなげていきたい。

<p><1 テーマ></p> <p>「西山台ドリームプランⅡ」</p> <p>主体的な学習姿勢の確立と進路実現</p>
<p><2 取組方法></p> <p>① 生徒の学習意欲の向上</p> <p>ア 大学レクチャー</p> <p>イ キャンパスツアー</p> <p>ウ 静岡大学研究室訪問</p> <p>エ ミニサイエンスレクチャー</p> <p>オ 西山台チャレンジサポート</p> <p>② 教員の指導力向上</p> <p>ア 教科研修講座への参加</p> <p>イ 教員相互の授業参観</p> <p>③ 高大接続改革に対応した学校体制作り</p> <p>ア 各種セミナーへの参加</p> <p>イ 先進校視察</p> <p>ウ 校内「総探企画運営委員会」、「授業改善サポート研修」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の3か年を見通したシラバス作り ・授業改善に向けたミニ研修実施

<3 成果指標と実績>					
	成果指標		初期値	目標値	実績(評価)
①	授業への取組	2年	41.5%	45%	32.3%(C)
		1年	37.4%	45%	46.9%(A)
②	平日学習時間	2年	1.67時間	2時間	1.80時間(B)
		1年	1.47時間	2時間	1.37時間(C)
③	休日学習時間	2年	2.47時間	3時間	3.27時間(A)
		1年	2.28時間	3時間	2.43時間(B)
④	授業で力がついた実感	2年	5.8%	10%	4.9%(C)
		1年	8.2%	10%	9.1%(B)
①	難関国公立大学の受験者数		38人	60人	46人(C)
②	外部との連携による探究活動等の参加生徒数		28人	30人	28人(C)
③	大学進学を目的とした補習等への参加生徒数		1489人	1500人	2402人(A)
④	難関国公立大学の合格者数		19人	25人	19人(C)
①	授業の内容がよくわかる	2年	14.3%	15%	12.2%(C)
		1年	11.9%	15%	12.6%(C)
②	学校が楽しい	2年	27.0%	30%	26.2%(C)
		1年	30.5%	35%	42.7%(A)
③	高校入学者選抜の志願者数		89人	95人	104人(A)
④	国公立大学の合格者数		85人	100人	96人(B)

<4 特徴的な取組>

(1) 生徒の学習意欲の高揚



慶応義塾大学 掛貝先生による財政を中心とした経済の講義

大学レクチャー

9月5日(木) 高1、高2対象

75分×2コマで大学から招いた講師による講義を受けた。生徒は大学の学問・研究に触れることで自らの進路を考える機会となり、進路実現に対する意欲の向上を図ることができた。

控室まで質問に来る生徒に講師の先生たちも丁寧に対応していただきました。

<講師招聘大学>

北海道大学、東北大学、一橋大学、静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、信州大学、大阪大学、慶応義塾大学、早稲田大学、上智大、東京工業大学、筑波大学、名古屋大学



ミニサイエンスレクチャー 9月13日（金）

理化学研究所 脳神経科学研究センター
馬塚れい子先生

「赤ちゃんはどうやって母語の母音や子音が聞こえるようになっていくんだろう？」中1～高3まで将来「研究者」をめざす生徒を対象に開催。

言語発達研究チームリーダーの馬塚先生は本校のOBで進路選択のアドバイスも頂きました。



西山台チャレンジサポート

校外活動に参加する生徒に奨励金を授与して挑戦を支援。9月現在のべ22人。

左写真は「モンゴルの医療ボランティア」という国際プロジェクトに参加した2年生男子が医療研修の一環として消化器外科の手術を見学しているところです。カナダやアメリカ、台湾の生徒とともに日本では経験できない貴重な体験をしてきました。

・キャンパスツアー…東大・京大を隔年訪問

・静岡大学研究室訪問（中3 12月実施予定）

（2）教員の指導力向上…「主体的・対話的で深い学び」を意識した実践的研究

- ① 教員相互の授業参観…授業見学カードを活用して授業改善へ
- ② 授業検討会…学習過程の可視化により、授業者が生徒の学びの様子、協議を踏まえて、授業デザインや支援につなげていく手法を実践的に研究

（3）高大接続改革に対応した学校体制づくり

- ① 教科研修セミナーへの参加 9月現在12人参加
- ② 先進校視察 「総合的な探究の時間」をテーマに前橋市立前橋高校へ2人
- ③ 「総探企画運営委員会」「授業改善サポート研修」と連携
 - ・「総合的な探究の時間」の3カ年を見通したシラバス作り
 - ・授業改善に向けたミニ研修



「浜西の生徒に育成を目指す資質・能力」
教科主任会で各教科の意見を共有

<5 現時点での成果と今後の方向性>

成果 各種講座へ生徒の自主的参加が続く。教員相互の参観が行われ、授業改善が進む。

今後の方向性 生徒の主体的な学習姿勢を伸ばし、深い学びを実現することで、学力向上につなげていく。